大宅文庫ニュース

2023 年 8 月 公益財団法人大宅壮一文庫発行 通期第 88 号

索引システム大改修 特集号

阿川佐和子さん

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO

なんと、紙!に
なったンダ。

環境に配慮して、「味の素®」と「うま味だし・ハイミー®」が、
紙のパッケージになりました。

※年間約34%のプラスチック使用量を削減します。（従来品比）

CONTENTS

大宅壮一文庫 雑誌記事索引システム Web OYA-bunko 20年ぶり大刷新　4-7

寄稿　80年代 大宅文庫は遠かった。　富川 淳子　10-11

寄稿　「ノンフィクションの危機」で問われるもの　森 功　13

特集　「週刊朝日」休刊の衝撃　14-15

第54回大宅壮一ノンフィクション賞「黒い海」　16

もっと広げ 伝えたい 大宅文庫の「潜在力」　18-19

広がる支援の輪 大宅文庫パトロネージュ5年目　20-21

新評議員・堀内 丸恵氏に聞く　23

大宅文庫インフォメーション　24-26

雑草譜

亡き父母を想う。瑞泉寺にて

大宅壮一文庫理事長　大宅 映子

先日、母・大宅昌の十七回忌を瑞泉寺にてとり行いました。

母は富山生まれ。小学校の教員を七年程したあと、講演にきた大宅壮一に見染められ結婚、一男三女をもうけ、完璧な妻と母をつとめました。

一九七〇年、父が亡くなってからは、父が集めた資料を遺言に忠実に、マスコミ中心に沢山の人々に利用してもらえるよう、彼女のネットワークをフルに生かし、財団法人大宅壮一文庫を設立。理事長として亡くなるまで尽くしました。

その間、早逝した兄の命日と父の命日、月二回必ず瑞泉寺にお参りしました。感激した和尚様が庵を建ててくださったほどです。

瑞泉寺は、「墓になど入らん」と言っていた父が、「こんなに明るい墓ならオレも入ってもいい」と言った素晴らしい所です。

今頃二人で、〝大宅文庫、大丈夫かしらねェ〟と心配顔なのではと、頭が痛い毎日です。

大宅文庫システム改修特集❶

Web OYA-bunko 20年ぶり大刷新

大宅文庫 雑誌記事索引システム

スマホでも簡単検索

使いやすさ追求 精度も向上

大宅壮一文庫は、事業の心臓部にあたる雑誌記事索引システムを大規模改修し、今年7月に運用を開始しました。約20年ぶりの大改造で、２０２２年度の経常収益（収入）にほぼ匹敵する約１億４６００万円を投じました。マスコミ関係者を中心にした従来の利用層に加えて、新たなスマホ世代の利用拡大を見込み、ウェブ画面での索引検索をこれまでより圧倒的に使いやすく改良し、スマートフォンやタブレット画面での閲覧・検索が容易に可能になります。検索精度も大幅に向上します。今後、全国で利用の高まりが期待されます。

利用するには…

① 来館して利用
② 勤務先または個人で契約して利用
③ 導入している施設（公立図書館・学校など）で利用

「より使いやすく」改修の全体像

今回の大規模なリニューアルは、大宅文庫が持つ雑誌資料を、より多くの人に利用してもらいたいという願いを込めたものだ。

80万冊の収蔵雑誌を基に歴代の専任職員たちが丹精込めて手作りしてきた「大宅式索引」の貴重さは、色あせることがない。

しかし、90年代に全盛を誇った大宅文庫の利用者数は年を追って下降線をたどる。財務体質の強靭化は喫緊の課題だ。この現状を打破し、マスコミ界だけでなく、これまで利用機会が少なかった個人ユーザーの誘導や、全国の教育機関・公立図書館などでの利用契約の促進を図るため、開発会社と1年間にわたる協議を重ね、「使いやすさ」を一番のキーワードに最大限の改良を図った。

（改修の主なポイントは次ページ以降で紹介します）

「ワンコインお試し索引検索」キャンペーン実施中です

（詳しい内容は7ページをご覧ください）

図書館振興財団 1000万円助成

大宅文庫のシステム改修の取り組みは、公益財団法人図書館振興財団（小澤嘉謹理事長）の23年度振興助成の対象事業に選ばれ、１０００万円が文庫に助成された。

助成対象は、「これからの図書館のあり方に関する調査・研究およびその実践・実験に対する助成」部門で大宅文庫が申請した「『大宅式索引』の次世代型活用促進デジタル化実践事業」。

大宅文庫は申請にあたり、「雑誌資料をもっと多くの人に」をシステム改修のテーマとし、検索画面に「スマホ対応」機能を新たに加えることで「雑誌記事の活用機会が最大化」される期待を前面に掲げた。個々の画面改修でも「トップメニュー」の新設など様々な工夫を施すことをアピールし、これらの改修効果で24年度にはウェブ会員版のログイン数を21年度実績（約１万４０００件）の１・５倍まで引き上げる目標値を示した。

振興財団は二次にわたる厳正な審査を実施。大宅文庫の事業計画は高い評価を得て、最高額の助成が決まった。

大宅文庫システム改修特集❷

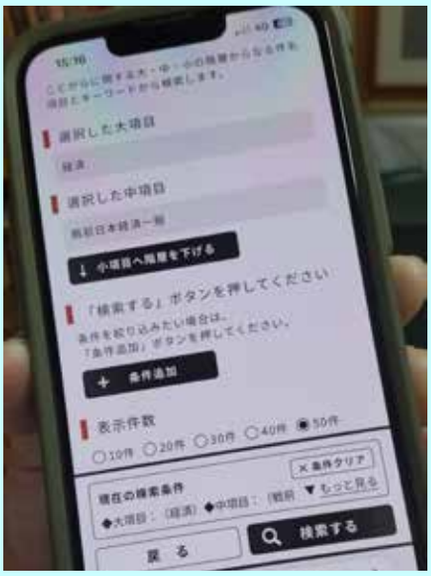
改修ポイント　その1

スマホ対応機能を搭載

▮ 小画面でも閲覧・検索スイスイ

・「レスポンシブ・デザイン」を採用。スマホやタブレットなどにも適合します。使用端末の画面サイズを感知して表示する「優れモノ」!

・従来はパソコン画面での利用を前提に設計。スマホでの操作は事実上困難でした。今回の改良でイチ押しのサービスです



改修ポイント　その2

「トップメニュー」新設

▮ 検索入り口を集約 分かりやすく

・㊨が新たなトップメニュー画面をスマホで開いたイメージ。調べたいことがあれば、まずは「フリーワード検索」からどうぞ

・従来は❶簡単❷詳細❸分類別❹目録――の４タブがあり、初心者は最初で戸惑うことも。選択の煩わしさを解消し一発検索が可能に

改修ポイント　その3

旧索引100万件を統合

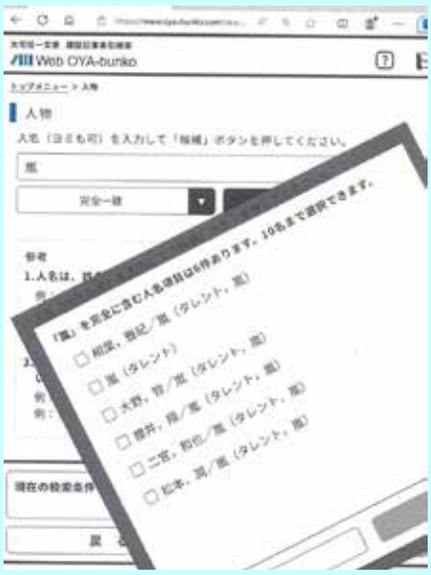
▮ 140年分の全索引、一括検索可能に

・統合したのは1987年以前に手書きのカードで作られた明治期以降のデータ(㊨)。これまではトップ画面の「目録検索」に分離していました

・新システムが一括提供する索引数はこれで計730万件超。巨大データ・バンクの誕生です

※新システムでは旧索引も課金対象になります

大宅文庫システム改修特集❸



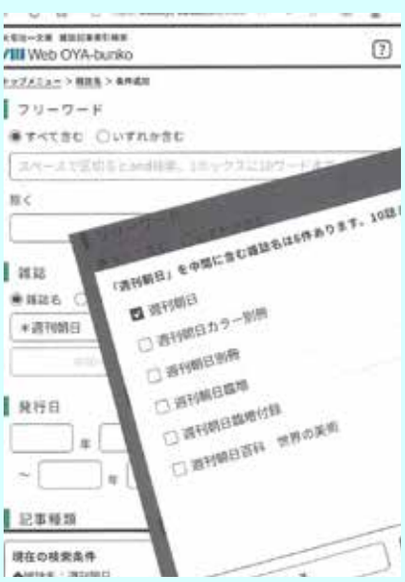
改修ポイント　その4

人物項目 10人同時選択

▮ 共通点のある人物を一括検索

・同じグループや所属先、活動分野、肩書(職業)などに共通項がある人を１画面に並べて表示し一度に10人まで検索可能にしました

・例えば「嵐」の５人。グループ「嵐」としての記事とメンバー各人の記事を一括りにして探せます。「恋愛」「趣味」などの条件付けもＯＫ



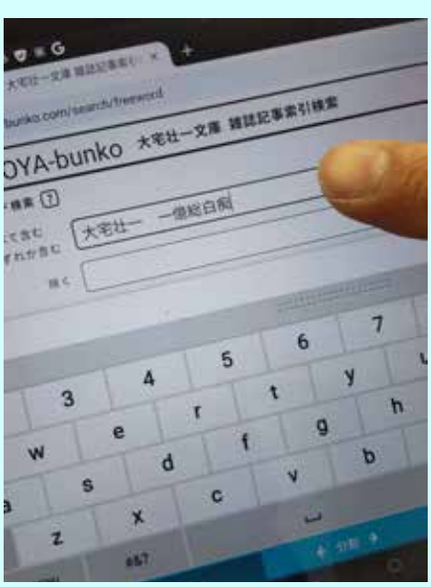
改修ポイント　その5

検索メニューに「雑誌」追加

▮ 調べ方の可能性 さらに広がり

・「雑誌『●●』に掲載された記事が読みたい」「雑誌『□□』の名物企画『〇〇〇』に登場した人物・景色を知りたい――そんな要望に応えます

・従来は検索条件の最後まで進まないと雑誌名、ジャンルを指定出来ませんでした。トップメニューに加えたことで使い勝手は格段にアップしました



改修ポイント　その6

「Google式」入力を実現

▮ より簡単に、使い慣れた作業で

・Ｗｅｂ検索をする際に誰もが使うＧｏｏｇｌｅ式入力法(「●●␣〇〇〇」＝ワード間にスペース)に対応した入力動作を可能にしました

・従来のWeb OYAの操作に慣れた方もご安心を。これまでの「or検索」「and検索」「not検索」を組み合わせた方式にも切り替えられます

大宅文庫システム改修特集④

「ワンコインお試し索引検索」キャンペーン
調べやすさ 実感して
12月末まで

お得ポイント
- ❖500円で検索し放題
- ❖索引表示すべて無料
- ❖たっぷり２日間ＯＫ

雑誌記事索引システムの大規模リニューアルに合わせ、大宅文庫は「ワンコイン（５００円）お試し索引検索」キャンペーンを展開中です。スマートフォンなどの小画面でも検索しやすくなった新生・Ｗｅｂ ＯＹＡ−ｂｕｎｋｏの魅力を、これまで利用したことがなかった人たちにも知ってもらうのが目的です。どなたもぜひお試しください。期間は23年12月25日までです。

❖

大宅文庫の索引システムは、来館利用か全国の大学・公立図書館の一部に設置されている端末を使う場合以外は会員登録が必要です。

今回のお試しキャンペーンは、この手続きを省略し２日間限りで自由に索引の検索サービスを楽しめます。通常の索引表示料金（１件20円）もかかりません。申し込みからお試し開始までの手順は次の通りです。

①大宅文庫ホームページの「ワンコインお試し索引検索」で必要事項を入力、クレジットカード支払い（５００円）をして「注文する」を押す②大宅文庫側がクレジット決済を確認後、ＩＤ／ＰＷ（パスワード）を申込者に送信③ＩＤ／ＰＷを入力してログイン。

ＩＤ／ＰＷの発給は文庫側のクレジット決済確認時間によって翌営業日になることもあります。お試しの利用期間はＩＤ／ＰＷ受給日の翌々日午後12時まで。お１人様１回限りです。

詳しくはホームページをご覧ください。

小画面 使ってみました
「便利・安心・画期的」スマホ世代に広がり期待

タブレットを操作する阿川さん

作家・エッセイスト
阿川 佐和子さん

格段に使いやすくなったＷｅｂ ＯＹＡ−ｂｕｎｋｏの「実力」を見てもらうため、稼働開始直前の７月11日、作家・エッセイストで大宅壮一文庫評議員も務める阿川佐和子さんに小画面端末で索引検索を試してもらった。

阿川さんはテレビ番組でも多彩に活躍中。この日も都内のテレビ局で収録を終えた後、文庫担当者の説明を受けて、タブレットとスマホで検索を体験した。

「ネット・ショッピングと同じ感覚で必要な索引を取りに行ける」と知って阿川さんは、「スマホ以外に引き出しを持たない人にはとても便利。検索の流れがネット・ショッピング的なのは安心感にもつながる」と評価。「地下鉄の中でも検索出来る。スマホ世代にユーザーが広がるのは画期的。個人レベルで多くの人に使ってほしいですね」と、評議員の一面をのぞかせながら期待を述べた。

索引732万件 巨大ＤＢ誕生
旧データの「価値」再認識を

大宅文庫事務局次長　鴨志田　浩

今回のシステム大改修は、スマホ対応の導入と合わせ、従来、陰に隠れた存在だった約１００万件の旧索引データを一括統合し、７３２万件の巨大データベース（ＤＢ）が誕生した意義を特に強調したい。

旧データはカードに手書きしていた概ね１９８７年以前に大宅文庫の先達が作成した。最古の記事は１８８８年までさかのぼる。以降、ちょうど１世紀分、約１００万件のストックがある。これまで運用していたＷｅｂ ＯＹＡ−ｂｕｎｋｏではテキストでの検索のみ可能な「試験公開」の形をとり、他のデータと一括で検索できる仕組みにはなっていなかった。

今回の改修で、例えば「長嶋茂雄」さんを検索した場合、１９５６年に初めて記事に取り上げられて以来、巨人入団から華々しい活躍を経て現役引退、その後の解任などの記事は、これまでのＤＢでは抜け落ちていたが、これらがすべて検索対象によみがえる。

昭和時代の大部分の出来事や、関東大震災、三陸大海嘯などの事件も、その後の調査や分析記事とともに瞬時にに振り返ることが可能になった。１４０年にわたる近現代史を雑誌記事からたどる楽しみを、ぜひ味わっていただきたい。

あ、しぼりたて。
が、いつでも新鮮。
「生しょうゆ」の「生」って何？
って思ってたけど、そうか、これなんだあ。
フレッシュな味わいに、素材がぐんと引きたつ感じ。
その秘密は、火入れをしない非加熱製法から生まれた
鮮やかな色、おだやかな香り、さらりとしつつ豊かなうまみ。
そして、開けてからも鮮度をキープする、密封ボトル。
一滴ずつ使えて、最後の一滴まで新鮮。
いつもの料理がほら、ひとつ上の味になる。
いつでも新鮮®
しぼりたて生しょうゆ
色鮮やか 調理で 香り立つ
いつでも新鮮。
キッコーマン
しぼりたて 生 しょうゆ
しぼりたて生
検索
キッコーマンお客様相談センター 0120-120-358
kikkoman
おいしい記憶をつくりたい。

日本がおいしくなるワイン。

MANNS WINES

世界の銘醸に肩を並べる日本ワインを目指す。

マンズワイン「ソラリス※」シリーズ

徹底したこだわり

「ソラリス」シリーズは、国産（長野県・山梨県）ぶどうのみを原料として、ぶどう栽培から醸造まで徹底してこだわり、造りあげる日本ワインです。勝沼と小諸、二つのワイナリーで醸造からびん詰めまで一貫して行い、出荷されます。

徹底した温度管理

ワインは、専用の定温倉庫で15度前後に保って保管し、出荷の際はクール便で配送。お客様へお届けするまで徹底した温度管理を行っています。

※SOLARIS＜ソラリス＞とは、
ラテン語で「太陽の」という意味。
陽光をたっぷり浴びて育つ良質の葡萄だけを使うというマンズワインの思いをこめた言葉です。

kikkoman

飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。

80年代 大宅文庫は遠かった。

寄　稿

富川　淳子

日本出版学会会長
跡見学園女子大学文学部現代文化表現学科教授

とみかわ　あつこ　大学卒業後、フリーライターを経て、1990年マガジンハウス入社。ブルータス副編集長、Hanako編集長、an. an編集長を歴任。その後、ぴあ、エスクァイア マガジン ジャパンで編集長を務める。2010年、跡見学園女子大学に転じ以来現職。専門は雑誌及びファッション文化。22年6月から日本出版学会会長。

人名カード ひたすらめくり…

外出先から取材のアポイントを入れるとなったら、まずは100円を10円に両替えしてくれる店探しから始めなければならなかった。公衆電話は10円玉しか使えなかったからである。そして次なるは、なるべく落ち着いて話ができそうな公衆電話を見つけるために駅の周りを物色する…。

かれこれ40年近く前のことである。私が新人雑誌記者の頃はこのように電話1本かけるだけでも時間も手間もかかる時代であった。スマートフォン普及率9割以上という情報化時代の現在と比べると何倍もエネルギーが必要だったのである。

言うまでもなく、大宅壮一文庫の雑誌記事検索を利用するのも半日がかり、時には1日仕事だった。芸能人や作家へのインタビューが決まったら、なんとか時間を作り、大宅壮一文庫へ向かう。過去にどんなことを語っているのか、これまでどんな仕事をしてきたのかなどの情報集めのためだ。数人しか電車から降りない京王線八幡山駅から「よりによってなんでこんな不便なところにあるのか。もっと都心にあるべき」と心の中でブツブツと不満をつぶやきながら歩いたことを今も思い出す。

その頃の大宅壮一文庫の雑誌記事検索は人名と件名に分類されたカード方式だった。私がもっぱら利用したのは人名検索である。人名別に分けられた箱にはカードが詰められ、それぞれのカードには人名とその人物の記事が掲載されている雑誌名、記事のタイトルやページ数が手書きで書かれていた。現在、Ｗｅｂ上で簡単にアクセスできる雑誌記事検索は当時すべて手書きのカードを手で1枚1枚めくって調べなければならなかったのだ。

例えば作家であり、現在は日本大学理事長でもある林真理子氏に関する情報が欲しかったら、林真理子のボックスを出してもらい、手垢（てあか）で汚れた何百枚もあるカードをひたすらめくる。ほしい情報が載っていると思われるカードを何枚か選び、雑誌名と号数を控えて、大宅壮一文庫のカウンターでその雑誌を出してもらうのである。ちなみに大宅壮一文庫記事検索Ｗｅｂ版の人名検索で林真理子を検索すると、２０２３年６月時点では４７７２件ヒットする。林真理子氏の初出雑誌記事は１９８３年『ｎｏｎ・ｎｏ』（４月５日号）。タイトルは「女の本音の表も裏も、あけすけに語ってしまったエッセイスト」。１００件目は88年の『微笑』（５月14日号）で「泥仕合の子連れ出勤論争」という記事である。

それはともかく、当時を振り返ってみると床が抜けそうで少し薄暗い大宅壮一文庫に行き、カードをめくる作業をこなしていたときには一度たりとも大宅壮一文庫はすごいとか大宅壮一文庫の存在に感謝しようと考えた記憶はない。

女性誌から社会現象になる流行が次々と生まれるほど雑誌に勢いがあった時代だった。その渦に巻き込まれている楽しさと忙しさの日々の中で、大宅壮一文庫の文化的価値について考えようともしなかったのが実情である。

（左面へ続く）

カード時代の索引箱（1985年・大宅文庫閲覧室）

雑誌記者時代、林真理子さんと取材旅行。仲良しぶりは誌面写真にも（㊧「JUNON」1986年6月号㊨同9月号から）

文庫なくしては研究進められず

しかし、雑誌やファッション文化を研究対象とする大学教員になった今では、大宅壮一文庫の永遠存続を強く願う一人である。雑誌が「時代の鏡」であるというその価値を調査資料として活用できるように1万種類以上、80万冊以上を所蔵しているその凄さに対し、ことあるごとに感謝し、畏敬の念を抱いている。現在ではSNSの人気コンテンツとなっている「おしゃれスナップ」はもとをたどれば雑誌から生まれた企画だが、その誕生はいつなのか。最初はどのような目的で始まったのかなどを調べるには女性誌を調査するしか方法はない。また、ファッションやメークの流行の変遷やダイエットブームの歴史も女性誌を資料として使う調査が有効だろう。つまり、大宅壮一文庫の存在なくしては雑誌文化やファッション文化の研究は進められないといえるのだ。

大宅文庫の書庫でゼミ生を指導する著者（7月）

ゼミ生毎年見学 昔話を自慢げに

毎年私のゼミの3年生は八幡山の大宅壮一文庫を訪問し、本箱がしなるほど雑誌がぎゅうぎゅうに詰め込まれたバックヤードを見学させていただいている。大学の図書館のデータベースから簡単にアクセスできる大宅壮一文庫の雑誌目次の検索が作られる現場をみて、学生に何かしらを感じ取ってもらいたいからである。ただ毎年、私のゼミ生は大宅壮一文庫訪問の前に、必ず「昔はね、カードを1枚1枚めくって、それはそれは大変だったのよ」と私の少し自慢げな昔話を聞かされることになる。大学の課題レポートでさえも、スマホで書きあげてしまう世代が私の40年前の思い出話に感動してくれるわけはない。

それを知りつつも、「大宅壮一文庫」ときたら「カードをめくり続ける」とまるで連想ゲームのように当時の光景が思い浮かぶ私にとっては、語らずにはいられない大宅壮一文庫の思い出なのである。

22年 索引登録数ランキング

人物

❶	安倍晋三	539件（⑨）
❷	大谷翔平	222件（②）
❸	羽生結弦	202件（⑥）
❹	なにわ男子	183件（④）
❺	小室（秋篠宮）眞子	173件（①）
❻	（Sexy）美少年	111件（⑦）
❼	Snow Man	104件（③）
❽	Aぇ　group	99件（㊺）
❾	秋篠宮悠仁	98件（－）
❾	King&Prince	98件（⑲）

出来事・事柄

❶	ウクライナ	1,204件（－）
❷	新型コロナ感染症	817件（①）
❸	岸田内閣	488件（㊱）
❹	老人一般	428件（⑤）
❺	インターネット	390件（④）
❻	アニメ一般	378件（⑦）
❼	ポルノビデオ	339件（⑧）
❽	統一教会	323件（－）
❾	人気スター	315件（⑥）
❿	菓子一般	305件（⑨）

カッコ内は前年度順位（「－」は100位外）

安倍氏死去 衝撃色濃く ウクライナ 誌面席巻

人物　出来事

大宅文庫が2022年1年間の発行雑誌を基に作成した索引は約11万件にのぼる。その内訳ランキングは別表の結果になった。

【人物】　22年は安倍晋三元首相の銃撃事件が衝撃的だった。新規登録539件の9割を超える500件以上が7月8日の銃撃以降の記事から生まれた。生前の功績や旧統一教会とのかかわり、国葬の是非などで多くの論評が掲載された。大谷翔平は2年連続の2位。23年は年間1位になれるか。5位の小室眞子さんは、結婚・渡米後、報道量が減少。弟の悠仁親王は、高校進学や将来の大学進学についての報道が重なり、初めてのトップ10入りした。

【出来事・事柄】　1位は年明け直後にロシアの軍事侵攻を受けたウクライナ。年間を通じて誌面を席巻した。20年から圧倒的な記事数で1位を続けた新型コロナウイルス感染症は報道も落ち着いてきた。

一文字ずつ手描きで原図を作成し、
活字を鋳造する母型を
機械で彫ります。
母型のない活字は職人が彫刻刀で
直彫りして作字します。
彫る
拾った活字を
ページの形へと組み上げます。
余白になる行間や文字間も
金属で埋め尽くし、
印刷の版を仕上げます。
組む
印刷された紙を折り、
重ねて綴じて、
本の形状に仕上げます。
綴じ方には、
糸かがり綴じ、中綴じ、
無線綴じなどがあります。
製本
綴じる
市谷の杜 本と活字館
Ichigaya Letterpress Factory
五感で楽しむ、
リアルファクトリー。
活字を拾う。印刷の原点である活版印刷は、膨大な活字が並ぶ棚から職人が原稿に合わせて、一文字ずつ、拾っては並べてを繰り返して文章を組み上げます。作字、鋳造、文選、植字、印刷、製本。想像を超える繊密な作業と途方もない数の工程を経て、一冊の本が仕上がります。
「市谷の杜 本と活字館」のテーマは、活版印刷と本づくり。この施設は、大正時代に建てられた大日本印刷の市谷工場の営業所を修復・復元したものです。館内には、かつての印刷工場の風景を一部再現した印刷所があり、ここを仕事場として、職人が活字を拾い、印刷機を回しています。二階にある制作室では、印刷と本づくりを体験することもできます。
一八七六年創業の大日本印刷は、日本の近代活版印刷文化の始まりとともにあります。活字に親しみ、歴史を探訪しながら、奥深くて美しい、印刷の世界をお楽しみください。
完成した組版を機械にセットし、
インキをつけて紙に刷ります。
校正刷りを行い、
誤植を確認した上で、
本機で刷ります。
刷る
住所：162-8001
東京都新宿区市谷加賀町1-1-1
電話：03-6386-0555
開館：平日／11時30分〜20時
土日祝／10時〜18時
休館：月・火（祝日の場合開館）
入場無料
平日のみ事前予約が必要です。
予約は来館前日までに当館ウェブサイトにて。
ichigaya-letterpress.jp
DNP 大日本印刷

寄　稿

「ノンフィクションの危機」で問われるもの
生き残りの術は原点回帰

ノンフィクション作家　森　功

今年の第54回大宅壮一ノンフィクション賞に伊澤理江著の『黒い海　船は突然、深海へ消えた』（講談社）が決定した。選考委員たちは昨今、目立つ自らの体験型ルポルタージュではなく、取材に基づいた王道の本格ノンフィクションだと高く評価しているようだ。著者は１９７９年生まれで、ノンフィクション専用サイト「スローニュース」の連載『沈没　寿和丸はなぜ沈んだか』を元に加筆修正したという。１作目にしての受賞だが、たしかに船舶事故の関係者たちを粘り強く訪ね歩いてまとめあげた労作であり、著者はこの先も広くさまざまなテーマにチャレンジできる逸材だと感じる。

新聞、テレビ、雑誌、書籍、さらにはインターネットのウエブサイトやＳＮＳにいたるまで――。社会事象を伝える方法は驚異的なスピードで広がり、と同時に、マスメディアのあり様についての論争が始まった。速報性という点において新聞や週刊誌はもとより、テレビでさえ、ネットメディアにはかなわない。そうして既存メディアの発行部数や広告料収入がネットに奪われ、いまや存亡の危機に陥っている。メディア界の転機といわれて久しいが、それはノンフィクションの危機と言い換えてもいいだろう。

もり・いさお　2018年、『悪だくみ　「加計（かけ）学園」の悲願を叶えた総理の欺瞞』（文藝春秋）で大宅壮一メモリアル日本ノンフィクション大賞を受賞。福岡県生まれ、岡山大学文学部卒。週刊新潮編集部などを経て2003年、フリーランスのノンフィクション作家に転身。『黒い看護婦』『許永中　日本の闇を背負い続けた男』『国商　最後のフィクサー葛西敬之』『鬼才　伝説の編集人　齋藤十一』など著書多数。

われわれ書き手の側の状況を振り返ってみると、とりわけこの１～２年というもの想像を超えて人材が変化してきた。新聞や通信、テレビの大手メディアからフリーランスのノンフィクションライターや雑誌編集部への転向組がけっこう増えている。著作でいえば、２０２１年にヒットした鮫島浩著『朝日新聞政治部』（講談社）、今回の大宅賞候補作『いじめの聖域　キリスト教学校の闇に挑んだ両親の全記録』（文藝春秋）の著者石川陽一も通信社を辞めたばかりだ。数年前から新聞社を辞めてウエブサイトに転職する記者も出てきたが、いまや週刊誌の編集部で活動する元ＮＨＫや新聞記者も少なくない。

今年の第45回「講談社　本田靖春ノンフィクション賞」のノミネート作もそれを物語る。朝日新聞ドバイ支局にいた伊藤喜之著の『悪党　潜入３００日　ドバイ・ガーシー一味』や元共同通信記者の齊藤彩著『母という呪縛　娘という牢獄』（ともに講談社）、元朝日新聞の永田豊隆著『妻はサバイバー』（朝日新聞出版）などはまさにそこにあてはまるだろう。ノンフィクションの生き残り策は実のところ、アナログかデジタルか、あるいは紙かウエブか、という媒体形式の問題ではない。

書き手や取材者がどれほどノウハウを磨き、読者を惹きつけられるか。版元である出版社や新聞社、ウエブサイトが優れた書き手を育てられるか。残念ながら現状のノンフィクション作の多くは、新聞や通信社あがりの書き手に頼っている。それは版元がノンフィクションの書き手を育てていない裏返しではないだろうか。書いた中身をコンテンツなどと洒落て呼ぶから取っ付きにくいが、とどのつまりノンフィクションの生き残る術は、原点回帰にほかならない。まずなによりそこに取り組まなければ、メディアの一大転機を乗り切れない。

（文中敬称略）

特　集

「週刊朝日」休刊の衝撃

惜しまれ101年の歴史に幕

日本の週刊誌の草分けである「週刊朝日」が今年5月末で休刊した。１９２２（大正11）年の創刊から１０１年。大正～令和の４時代を経て、大衆向けの情報誌として多くのファンに親しまれ、昭和の全盛期には宅配の普及で主婦を購読層に抱き込む時代もあった。しかし、ピーク時に１５４万部を誇った発行部数がついには７～８万部まで落ち込み、「出版不況」が顕在化する中での無念の退場だった。その衝撃は大きく、休刊特別増大号は４刷を重ねる異例の展開を見せた。

昭和の編集室を描いた休刊特別増大号（６月９日）の表紙と裏面

講演する渡部編集長

「最終号４刷は奇跡の結果」講演会で渡部編集長

「最終号（特別増大号）の４刷は、読者の方々が百年分の思いを込めて買ってくれた、奇跡の結果です」

大宅文庫は７月28日、「週刊朝日」の休刊を惜しんで、最後の編集長となった渡部薫さんの講演会を館内で開催。渡部さんは集まった約40人の聴衆にこう述べて、感謝の意を示した。

休刊が公表されたのは今年１月。そこから編集部は「『週刊朝日』をもう一度思い出してもらうため採算度外視で取り組んだ」。最終号は「刷れば刷るほど売れる」状況が続き「こんな皮肉はない」と思いつつも、「先輩たちが培ってくれた『週刊朝日』の歴史があればこそなのだろう」と強く感じたという。講演の最後には「終わってしまうと寂しさしか思い出さない」と寂しさをにじませた。

◇

大宅文庫はこの講演会に合わせて、前後の６日間、「ありがとう週刊朝日」展を開き、創刊号から最終号までの約３００冊を展示。訪れた人たちは次々に手にして誌面に見入っていた。

「存在感」大宅文庫と重ね…

休刊特別増大号（６月９日）では、大宅壮一ノンフィクション賞受賞者でもあるフリージャーナリスト安田浩一さんが連載『週刊誌と週刊朝日の１００年』の最終回で、大宅文庫の取材ルポを載せた。書庫の底板が「週刊誌の重荷に耐えるようにたわんでいる」光景を、安田さんは「これだ、この重量感だ。それこそが、週刊誌の存在感だった」と評した。

最後に、週刊朝日の「鼓動が止まる」ことに、「巨大な書庫に圧倒されながら、私は週刊誌文化の小さな欠片が、ぽろりと落ちる音を聞いた」と寂しさをにじませた。

隆盛期154万部、女子大生、アニメ・キャラ登場…時代映す歴代表紙

戦後１年。タイトルが左横書きに＝１９４６年８月４日号

最高部数１５３万９５００部達成＝１９５８年新年号

女子大生表紙シリーズ＝１９８０～96年。後に一時復活

アニメ・キャラクター単独発登場＝２０１０年４月２日号

大宅文庫2階書庫の「週刊朝日」収蔵コーナーの一角。1922年の創刊以来の計5056冊が、地下収蔵庫とに分かれてぎっしりと並ぶ

「週刊朝日」5056冊収蔵　大宅文庫

1922（大正11）年2月25日発行の「旬刊朝日」創刊号。大宅文庫に大切に保存されている

大宅文庫は、1922年2月25日発行の創刊号（当初は「旬刊朝日」）に始まり、休刊特別増大号（今年6月9日）まで計5056冊もの「週刊朝日」を収蔵する。当然ながら誌別では圧倒的な最大冊数を誇り、そのすべてが1世紀の歴史の断面を克明に記す貴重な資料である。

1922（大正11）年2月25日の創刊号は、毎月3回発行の「旬刊号」としてスタート、「週刊朝日」に改題される同4月2日号までではこの形が続いた。当初の誌面サイズは現在のタブロイド型で全16ページ、定価は1部10銭だった。

戦時色が強まった昭和初期は誌面もその色合いを強めた。40（昭和15）年10月6日号からは戦時統制に先駆けて判型を現在のB5判に変えた。社会の混乱を反映してか、この前後の号は大宅文庫でも欠本が目立つ。

表紙にも時代の変化がうかがわれる。終戦後1年を経た41（昭和21）年8月に、タイトルは創刊時からの右横書きが現在の左横書きスタイルに切り替わった。

その後、昭和30年代に入り同31年の「週刊新潮」を手始めに出版社系週刊誌の創刊が相次ぎ、群雄割拠の時代を迎えると、誌面も一段と躍動。58（昭和33）年新年号は発行部数が153万9000部に達し、「わが世の春」を謳歌した。

平成時代には女子大生シリーズや単独のアニメ・キャラクターをあしらった表紙も登場した。大宅文庫の書庫にぎっしりと並ぶ5056冊には、それらの懐かしい思い出の数々が刻み込まれている。

論考

今、読者が求める週刊誌とは…

生き残りへ知恵絞ろう

大宅壮一文庫専務理事　鳥山輝

大宅文庫の2階書庫。最前列を週刊朝日の書棚が、異様に長く陣取っている。大正11年の創刊で、日本最古の総合週刊誌という輝かしい伝統と実績への敬意から、他誌より格上の〝特等席〟が与えられているのだ。その週刊朝日が、今年5月限りで休刊に追い込まれてしまった。かつて週刊朝日の名編集長として品位ある誌面づくりを進め、10万部を150万部にまで伸ばした扇谷正造さんが存命だったら、こう嘆いた気がする。

「まさか！　悪い冗談はやめてくれよ」

月刊現代、論座、週刊宝石、主婦の友、読売ウイークリー、漫画サンデー、月刊宝島、週刊テレビジョン…。ネット媒体に読者と広告を奪われ、姿を消した週刊誌や月刊誌は数知れず。生き残ってはいても、台所は週刊朝日より火の車の雑誌はいくらでもある。追随して休刊に踏み切る動きは、もはやだれにも止められないだろう。

スマホでタダか安価な最新ニュース、ライブ映像が見られる時代になったから か、若い世代の反応はいたってクールである。「年寄り向けの記事ばかりの週刊誌は、退場して当然」といった具合に。

彼らにはテレビも時代遅れのメディアで、毎日YouTubeやTikTokに熱中している。

総合週刊誌の使命は尽きたのだろうか？

確かに鮮度が低い記事が多く、刻々と状況が変わる大事件や緊迫した国際情勢記事などは、すぐ色あせる。大きな弱点だが、だからと言って無意味な存在になったわけではない。

丹念に調べ上げたスクープ記事は、いつだって大きな関心を呼ぶ。魂を揺さぶる感動の記事が人の心や世の中を変えることもある。赤字続きでは、以前のように手間暇かけた取材は望めないにしても、読者が求める週刊誌なら生き残れる道はあるはずだ。何としても新たな収入源を得る知恵を絞ってほしい。

週刊誌の衰退は、大宅文庫にも甚大な影響を与えている。だからこそ我々も、雑誌の価値を見直し、膨大な所蔵雑誌を活用して存続できる方策を、必死に探っている。

（とりやま・てる＝元中央公論新社会長）

第54回大宅壮一ノンフィクション賞

『黒い海　船は突然、深海に消えた』
伊澤さん 初の単著で快挙

「第54回大宅壮一ノンフィクション賞」は、フリージャーナリスト伊澤理江さんの『黒い海　船は突然、深海に消えた』（講談社）が選ばれた。多くの謎をはらみながら風化しつつあった漁船の沈没事故の真相究明に敢然と挑み、地道な取材を重ねて書き上げた努力が高く評価された。伊澤さんは初の単著で栄えある受賞に輝いた。

受賞式で著作を手にする伊澤さん

受賞式は6月21日、都内の東京會館で行われた。

選考委員を代表して審査評を述べた後藤正治氏（第26回大宅賞受賞）は、「選考員は個性派ぞろいだが、今回は全員が（『黒い海』に）○を付けた。圧倒的に優れていた。小さな事実を積み上げて真相に迫る。まさにノンフィクションの王道だ」「登場する船主たちとのかかわりも詳しく書かれている。とても共感を覚えた」と最大限の評価を与えた。

受賞のあいさつに立った伊澤さんは、冒頭で執筆に至った経緯を紹介。「海に消えた17人の命。国の結論に異を唱えた人たちの声は消える。強い者の声は通る。小さな声にこそ伝えるべき大切なものがある」と述べた。さらに「この作品には理不尽に生きていかなければならない人が何人も登場する。逃れようのない絶望の中にあっても、生きて行こうとする人たちの尊さを描こうとした」と、強い思いを語った。

「一気に読ませる」大宅理事長が称賛

パーティーでは大宅文庫の大宅映子理事長とも懇談。大宅理事長が「（『黒い海』は）読み物として一気に読ませるパワーがある」と称賛。伊澤さんは「大宅賞をいただいたことで、この作品が後世に残り、事故の真相追及が受け継がれていけばと思う」と期待を述べた。

いざわ・りえ　1979年生まれ。英国ウェストミンスター大学大学院ジャーナリズム学科修士課程修了。英国の新聞社などを経てフリージャーナリストに。主にWebメディアでルポやノンフィクションを執筆してきた。

あらすじ

2008年6月23日午後、福島県いわき市・小名浜港所属の巻き網漁船「第58寿和丸」（135トン、20人乗り組み）が千葉県・犬吠埼灯台東約350キロの沖の太平洋上で沈没し、17人の犠牲者を出した。当時、船は碇泊中で海もさほど荒れておらず、乗組員はひとときの休息をとっていた。事故直後の海は転覆事故ではあり得ないほどの大量の油で真っ黒だった。だが、国の運輸安全委員会は「原因は波」と結論付けた。

沈みようがない状況でなぜ、悲劇は起きたのか。生存者の声はどうして閉ざされたのか。

発生から11年後の19年、偶然のきっかけで事故の闇を知った著者はひとり、取材を始めた。生存者を一人ひとり訪ねて証言を聞き、国の関係者や専門家に手紙を出して面会を繰り返し…。小さな事実を丹念に積み上げて著者が得た推論は「潜水艦の当て逃げ」だった。真相の究明に向け著者の情報開示請求と取材は、米国にまで網を広げ現在も続いている。

「面白がり精神必要」
文藝春秋・飯窪氏が講演
出版学会

文藝春秋社は今年1月、創業100周年を迎えた。同社代表取締役社長に6月就任した飯窪成幸氏（公益財団法人大宅壮一文庫理事）＝写真＝は専務取締役時の5月13日、都内で開かれた日本出版学会の2023年度総会で「文藝春秋のこれまでとこれから」のテーマで基調講演し、創業以来の基幹誌である月刊『文藝春秋』の1世紀の歴史と今後の展開を軸に論じた。

飯窪氏はこの中で、創業オーナーだった菊池寛氏の業績や個性に触れ、「その個人的資質みたいなものが現在の文藝春秋、週刊文春、Numberなどにもいまだに影響を与えている」と指摘。さらに戦後の初代社長で、社員の持ち株会社化をリードした佐々木茂索氏について、「（持ち株制度が）今の社全体の風通しの良さにつながっている。文学に対する思いもすごく、金儲け主義ではなかった。佐々木が戦後の文藝春秋を作った」と評価した。

そのうえで「難しいものばかりでは雑誌は売れない。『面白がり精神』こそが本来、雑誌が持つもの」と持論を展開した。

今後については、「創業の原点に立ち返って、何が面白いのか、もう一回、考える」ことの重要性を強調。「私が考えてもだめだ。若い人たちが集まって、ワイワイガヤガヤとゴシップから高邁なことまで議論する。そんな体制づくりのお手伝いをやらなければならないと思う」と述べた。

第45回

講談社 本田靖春 ノンフィクション賞

第54回 大宅壮一ノンフィクション賞
第71回 日本エッセイスト・クラブ賞 受賞

大重版出来！

全長50メートルの漁船は、
沈みようがない状況でなぜ沈んだのか？
なぜ杜撰な事故調査報告書が
作成されたのか？

**調査報道と
謎解きミステリーが
組み合わさった、**

衝撃の読後感！

伊澤理江

黒い海

船は突然、深海へ消えた

撮影：穐吉洋子

定価1980円（税込）

講談社 〒112-8001 東京都文京区音羽 2-12-21
講談社BOOK倶楽部 https://bookclub.kodansha.co.jp/

KODANSHA

もっと広げ 伝えたい 大宅文庫の「潜在力」

大宅文庫は、2023年度から収蔵データを従来以上に幅広く社会に提供する取り組みを強化します。新システムの稼働（4～7㌻参照）に合わせ、80万冊の雑誌と730万件もの雑誌記事索引が秘める情報力をより多くの方々に開放し、仕事や学習に役立ててもらうのが狙いです。その実現へ「発想工房」と「調べもの拠点」化を進めます。雑誌を紹介する企画展も多角的に開催します。ご期待ください。

「情報の宝庫」社会に開放

学習する大妻女子大の学生（23年５月）

大量の雑誌資料で「知の生産物」創出

研究・企画手助け　「発想工房」

大宅文庫が持つ記事データを基に研究や企画作りなどをする空間＝工房として、文庫のスペースを位置付けてもらい、一層の活用を期待する。文庫側は利用者の要望に沿って専門スタッフが資料探しなどを積極的に手助けし、これまでの数々の実績を超えるような「知の生産物」の創出を目指す。

対象はマスコミ関係者に加え、官・民を問わず多彩な分野を想定、幅広い層に利用を呼びかけて行く。

「調べもの拠点」　拡大に期待

大宅文庫が所蔵する明治期からの雑誌記事は、日本の歴史の断面を掘り起こすのに絶好の資料となる。大学生の課外授業や卒業論文などにはうってつけだ。

２０２２年度は教育機関だけでも専修大学文学部、東洋美術学校、女子美術大学などの教授・学生が来館し、「調べもの」を実践した。改めて「調べもの拠点」としてアピールを強めることで、今後は全国の学校のほか、社会人・シニア層への広がりを実現したい。

資料探しなど相談承ります

大宅文庫は情報の宝庫であると同時に、その情報を手際よく提供出来るエキスパートもそろっています。「○○の研究資料がほしい」などのご相談は積極的にお寄せください。

特定の人物や出来事の索引をまとめることも可能です（ケースにより有料も）。22年11月に都内で開かれた漫画同人誌のイベント「コミティア」では、作家の索引検索結果を小冊子にして１部２００円で試験販売したところ、大好評でした。お問い合わせください。

80万冊収蔵、記事索引730万件

高い資料価値　出版などの「成果」数多く

大宅文庫のデータ力が生かされた、近年の最高傑作が、2019年のベストセラー１位になった『一切なりゆき　樹木希林のことば』(文春新書）だ。当時、担当編集者の石橋俊澄さんが、大宅文庫が所蔵する樹木さん関連の約30年分の記事に着目、「これはいい本になる」と直感し、抜き出し作業をして１冊に仕上げた。

21年の「第52回大宅壮一ノンフィクション賞」に輝いた石井妙子さんの『女帝　小池百合子』（文藝春秋）も、著者が大宅文庫に通い、小池氏の過去の数十年分の発言を丹念に調べ上げた成果だ。

「大宅文庫の資料があってこそなし得た仕事だった」と石橋さん、石井さんは口をそろえた。

「がんばれ雑誌」展 連続開催

今秋から　魅力のテーマ 関連誌大量に

大宅文庫は今秋から「がんばれ雑誌」展を連続開催します。出版不況が深刻化しつつも、週刊誌を始めとする雑誌は時がたつほどに価値が増します。各展は読者の視点でそれぞれに魅力的なテーマを設定し、過去の関係雑誌をどっさり並べ、ほとんどが読み放題です。ぜひお越しください。

昭和のスター展

11月27～12月2日

昭和30年代を中心に「平凡」などや映画誌で当時のスターたちの活躍を回顧

創刊号300冊展示

9月11～16日

収蔵する7000誌の創刊号から約300誌を公開。「お宝」級に巡り合えるかも

震災100年歴史展

24年3月11～16日

雑誌は震災をどう報道してきたか。明治期から1世紀余の歴史をたどる

アニメージュ読み放題

24年2月11、12日

前回展（23年1月）の好評にこたえて開催。スタジオジブリ関連誌も紹介

各回とも入館料として1人500円（65歳以上半額）。期日は予定です。近づきましたらＨＰ㊃でご確認ください。

「雑誌の宝庫展」

「ジブリ」にファン熱中

「アニメージュ」読み放題も大人気

雑誌紹介の本格的な企画展第1弾は「雑誌の宝庫展 スタジオジブリ編」。昨秋の2日間、大宅文庫2階閲覧室で開催、ジブリ関連記事が載った雑誌500冊を並べ読み放題にした。

ファンには垂涎の企画だったようで、大勢の人が訪れ、長時間誌面に見入っていた＝**写真㊤**＝。SNSには「最高の空間。時間が溶けた」「素晴らしいの一言。（大宅文庫は）まさに宝庫」などのコメントが躍った。

年明けの1月には、ジブリファンに特に人気の月刊アニメ雑誌「アニメージュ」の読み放題展を22日間開催。創刊号から次々に読みふける人たちで連日にぎわった。

広がる支援の輪

大宅文庫パトロネージュ５年目

全国から応援の声次々

大宅文庫の運営を支えてくれる会員組織「**大宅文庫パトロネージュ**」をご存じでしょうか。この1年も全国各地の団体や個人の皆様から温かな寄付が届きました。今年は発足から5年目。支援の輪の一層の広がりを期待し、5人の方々の応援メッセージを特集します。（4年間の実績など25面に）

「人間の宝庫」存続を

作家　小池真理子さん

写真/鈴木　慶子

二十代のころ、勤めていた出版社を辞めたあと、フリーライターとして雑誌や日刊紙の原稿を書く仕事をしていました。人物ルポをまとめて一冊の本にしたこともあります。今と違ってパソコンもスマホもない時代。調べたいことが出てくるたびに大宅文庫に足を運び、お世話になる日々が続きました。

小説家になりたい、という夢を抱きながら生きていたころのことです。図書館だけでは到底、調べられない幾多の雑誌記事に目を通す作業を繰り返していくうちに、時代を越えて共通する人間の本質が見えてきて興奮させられました。人生経験の浅い小娘が、未だ見ぬ人間性の複雑さを早いうちに感じとることができたのも、大宅文庫のおかげでした。

大宅文庫は「人間の宝庫」です。どれほどデジタル社会になったとしても、人間そのものをデジタル化することはできません。末永く存続されますよう、心より応援しています。

（長野県軽井沢町在住）

アナログ派に便利です

コラムニスト　泉　麻人さん

大宅文庫を最も集中的に使わせてもらったのは、平成3～7年に『B級ニュースの旅』の連載を書いていた時です。週刊誌のちょっと変わった記事や連載物、例えば『紅茶キノコブーム』『人間タンク』などを取り上げるのに、随分助けられました。平凡社のネット版で2年間くらい連載していた『昭和50年代東京日記』を今秋、出版予定です。この取材でも芸能人などのデータ探しで利用しました。

僕は昭和の流行などについて書くことが多い。他の図書館とかは何を調べるにもパソコンが主力だが、大宅文庫だと、流行の見出し、雑誌の名前などを合本でも調べられる。アナログ・タイプの利用にはとても適しています。杉並に住んでいるので地の利もあります。

大宅文庫はコンパクト・サイズの資料室。とりわけサブカル資料に関しては草分けで、存在意義はとても大きい。世田谷にとっても重要な文化的施設だと言えます。（東京都杉並区在住）

地方で研究 とても助かる

近代文学研究家・石川啄木記念館館長　森　義真さん

石川啄木、宮沢賢治の研究に足を踏み入れて35年ほどになります。近代文学を研究する者の一人として、他の研究対象も含めて様々な文献なしには仕事になりません。地元の県立図書館などに置いていないものを探すのに、一番頼りになるのが大宅文庫です。

大宅文庫のことは古くから耳にしていました。雑誌のことならすべて大宅文庫で分かる、と。実際に利用するからには、ささやかでも支援しなければと思い、一昨年、パトロネージュに参加しました。

今年も井上ひさしや吉田類のインタビュー記事、森荘已池の資料探しでお世話になったばかりです。大方はメールや電話でお願いし、郵送や宅配で送ってもらっています。便利で本当に助かっています。ネット上の情報、例えばウイキペディアだけでは絶対に論文は書けません。どうあろうとも大宅文庫が続くことを願っています。

（岩手県盛岡市在住）

❖大宅文庫パトロネージュ

「パトロネージュ」は英語・仏語で「支援」の行為を指す。大宅壮一文庫の立て直しの一助とするため、2019年度に発足。幅広い個人や企業・団体に参加してもらい、会費（寄付）を募っている。

年金受給「即送金」欠かさず

野村隆二さん

野村さんは、パトロネージュの熱烈支援者です。19年度にスタートして以来、ほぼ欠かさず2か月ごとの年金の中から支援を続けてくれています。

◇

20年ほど前のことです。私と同世代の永六輔さんが書いた戦時中の疎開の話をもう一度読みたくなり、おそらく『文藝春秋』の記事だったと記憶していたので編集部に手紙で問い合わせました。しかし、見つからない。後で考えると別の雑誌だったのかもしれません。その時、編集部の方がアドバイスしてくれたのです。「大宅文庫に尋ねてみたら」と。

さっそく電話で問い合わせました。意図した記事自体には結局たどりつけませんでしたが、大宅文庫の方には本当に親切にしてもらいました。永さんの似たような記事を探し、コピーをして送ってくれて。

数年前、その大宅文庫が危機だと、ニュースを見た友人が知らせてくれました。私自身も別のニュースを見て、お世話になったかつての思い出がよみがえり、参加することにしたのです。

90歳になり、現在は家内と二人でホームに入り生活しています。毎回わずかな額ではありますが、出来る範囲で続けるつもりです。

（大阪府豊中市在住）

書庫見て驚き 九州から応援

椿　靖子さん

一昨年、上京した折に文庫に伺い、担当の方に館内を案内していただきました。雑誌で埋まる書庫を見た時の感想はただただ、「すごい」の一言、本当に驚きました。

文庫の大宅映子理事長は年が一つ違いのお友達です。以前、熊本に講演にいらした際に話を聞き、共感したのがきっかけです。大宅壮一さんの本も随分読みました。（前理事長の）昌さんがテレビでよくお話ししていたのも記憶しています。

大宅文庫は貴重な施設です。いつまでも存続するよう願っています。

（熊本県水俣市在住）

どなたも寄付は1万円から

あなたもご参加ください

申込方法

◆HPから「大宅文庫パトロネージュ」の特設ページへ➡Web専用フォームを使用

◆郵送またはファクスで「支援参加申込書」に記入して「大宅文庫パトロネージュ係」まで　※申込書はHPからもダウンロードできます

◆**募集対象**　大宅文庫パトロネージュの趣旨にご賛同いただける企業・団体と個人の皆様。

◆**会費**（寄付金）　▽企業・団体＝10万円以上／50万円以上など▽個人＝1万円以上、3万円以上など。

◆**特典**　①大宅文庫本館の入館料が無料になるほか、会員証を進呈②会費5万円以上の支援をいただいた方には、「研究員」などの肩書入り名刺をお作りすることが出来ます。詳しくはホームページで。

22年度 パトロネージュに参加された方々

敬称略。※公表を了承された方のみ掲載

【企業・団体】　大日本印刷▽マガジンハウス▽主婦と生活社▽集英社▽文藝春秋▽シービーエス▽富士化学塗料▽西武鉄道▽医療法人はまなす

【個人】　野口 武悟▽羽田 忠彦▽荒井 翔平▽今井つかさ▽三浦なつみ▽田口 俊明▽渡辺 喜満▽荻原 浩▽福田 勝樹▽富田 明生▽鎌田 隆幸▽若林 成明▽佐久間一政▽武田 徹▽本間 啓示▽稲田 寛▽武田 修▽徳田 直子▽森 義真▽藤城 博▽矢島 康吉▽国松 春紀▽坂口 晴一郎▽有田 順子▽橋場 一郎▽永田 裕之▽中能島知子▽村上 公子▽大西 旦▽奥山 脩二▽斎藤 立子▽中井 一平▽末永 汎本▽吉成 敏夫▽中村 美穂▽山本紀美子▽俣野 隆▽和田 隆次▽佐藤 和宏▽天野 優▽松本 京子▽工藤 路江▽会田久仁夫▽山寄 進▽櫻井よしこ▽鳥山 輝▽鈴木 典子▽南 邦子▽寺田 俊治▽石井謙一郎▽高江洲仁▽笹川 実▽小堀桂一郎▽佐藤 直由▽阪本 博志▽水上 寛裕▽和田 丈司▽石井 正暁▽小林 赫子▽伊藤 雅俊▽泉 麻人▽三好 隆弘▽野間 省伸▽二之湯 智▽小池真理子▽安藤 武彦▽門倉百合子▽井上 和明▽杉山 啓二▽小林 政弘▽柴田 正明▽古谷 博徳▽酒井 忠昭▽高橋 豊▽野村 隆二▽高橋 岳二▽大久保信幸▽熊谷慎一郎▽山川 道子▽脇 雅俊

「遺贈」受け入れ拡大へ レディーフォーに登録

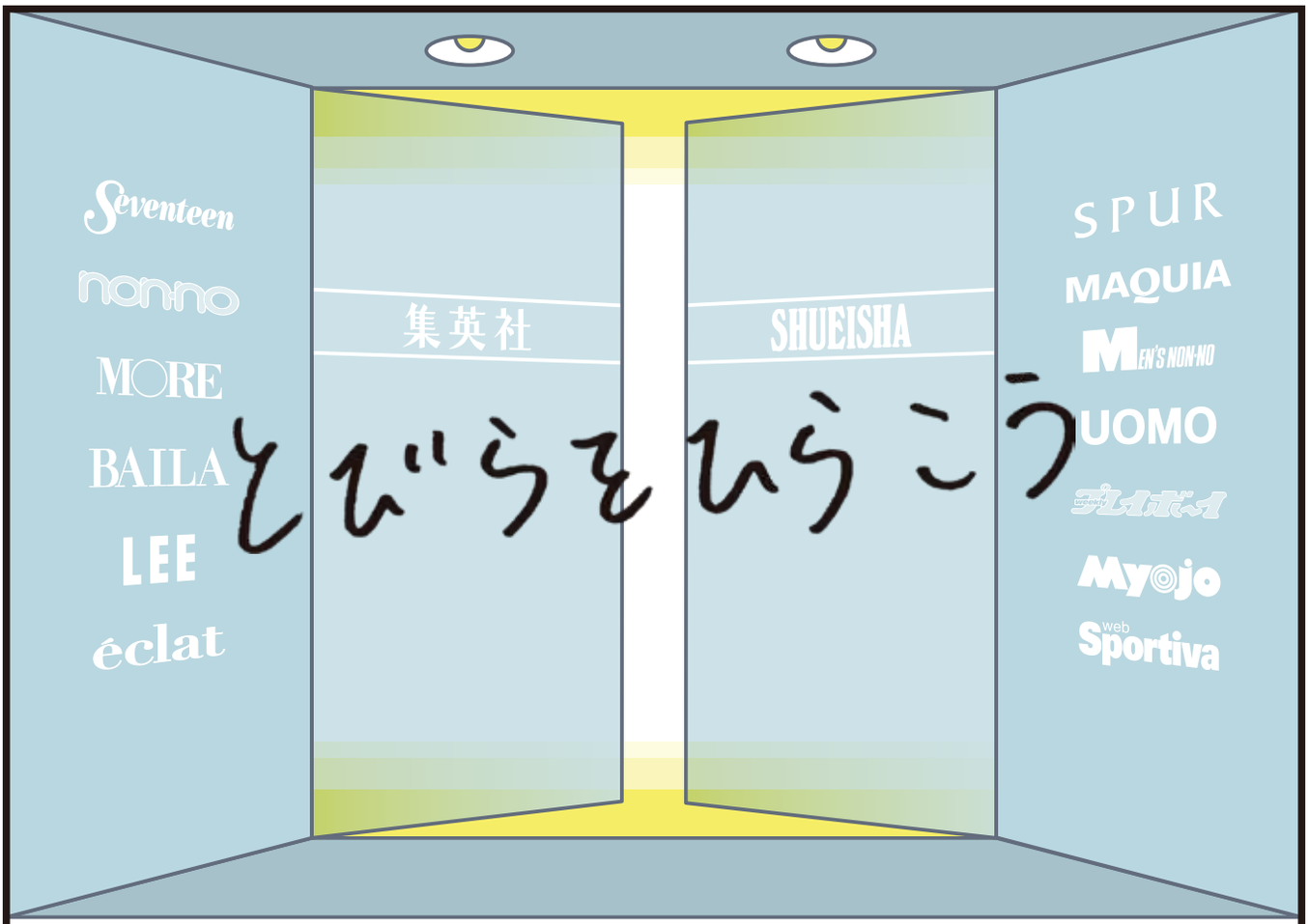
遺言書に基づき、遺産の一部またはすべてを指定先に寄付する行為が「遺贈」です。大宅文庫は、当文庫の保存を強く願う方々の思いにこたえようと、一般寄付とは別枠で遺贈の受け入れにも努めています。

レディーフォー遺贈サポート窓口
フリーダイヤル0120・948・313

皆様からの問い合わせや実際に遺贈を決意された方からの申し込みの窓口を拡大するため、このほど寄付サポート専門機関の「READYFOR（レディーフォー）株式会社」（東京）に、遺贈受け入れ団体として登録しました。今後は同社でも大宅文庫への遺贈について相談や紹介に応じてくれます。

❖

内閣府認定の公益財団法人である大宅文庫への寄付や遺贈などは、所得税の控除や相続税の優遇措置の対象になります。さらに東京都在住あるいは世田谷区在住の方のご寄付は、所得税控除に加えて都民税、区民税の寄付金控除が受けられます。



Seventeen 不定期刊

non-no 毎月20日発売

MORE 毎月28日発売

BAILA 毎月28日発売

LEE 毎月7日発売

éclat 毎月1日発売

SPUR 毎月23日発売

MAQUIA 毎月22日発売

MEN'S NON-NO 毎月9日発売

UOMO 毎月25日発売

weekly プレイボーイ 毎週月曜日発売

Myojo 毎月23日発売

集英社
〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2-5-10
https://www.shueisha.co.jp/

web Sportiva
http://sportiva.shueisha.co.jp

大宅文庫新評議員

堀内 丸恵氏に聞く

集英社取締役会長で一般社団法人日本雑誌協会理事長を務める堀内丸恵氏が、公益財団法人大宅壮一文庫の評議員に就任した。7月、インタビューに応じ、「大宅文庫は業界の公共財産」と強調した。

大宅文庫は公共財産 メディア、もっと利用を

――6月に日本雑誌協会理事長として、ポルトガルで開催された世界雑誌連合（ＦＩＰＰ）の総会に出席された。海外の雑誌の現況をどう受けとめたか。

まず感じたのは、世界中どこの雑誌出版社も苦戦しているな、と。国によって多少の違いはあるにせよ、生き残りに苦労している現実を目の当たりにした。

雑誌は安すぎる？

その中で、興味深い発表が二つあった。一つは、釣りの雑誌を出している米国の出版社。1冊10ドルぐらいの雑誌だそうだが、ご多聞にもれずじり貧。ただ、釣りは競技人口が他の競技と比べて少ない反面、一人が使う費用は格段に多い。そこに着目し、釣りのコンテストやツアーなどを次々と企画し、幅広い情報を誌面で提供した。その結果、この3、4年で3倍くらい売り上げを伸ばしたという。雑誌があるからこそ読者の信頼を得たのだろう。

もう一つはＦＩＰＰのプレジデント兼ＣＥＯであるジェームズ・ヒューズ氏の「雑誌は安すぎる」という指摘だ。彼なりの適正価格は「ワイン1本ぐらい」、日本円で２００円というところか。紙質なども良くして手元に置けるような雑誌を追求すべし、ということなのだろう。

――「週刊朝日」が休刊した。雑誌の衰退を止める処方箋はないのだろうか。

「週刊朝日」の休刊は雑誌出版界の「今」を象徴する出来事だった。我々は物流一つをとっても様々な問題に直面している。関連業界や行政と協議を重ねながらドライバーの週休2日体制を構築するなどの対応を着実に進めている。海賊版対策でも団体を作った。雑誌がタダで読まれる、まさに死活問題だ。そうした対策とともに雑誌の魅力をアピールして生き残りを図る。

「ハルメク」は成功例

「ハルメク」のように、六十～七十代の女性を一番のボリューム・ゾーンに読者のニーズに沿った誌面展開をして、しっかりと結果を出すケースも生まれている。定期購読誌の成功例だ。同社では読者からの月２０００通ほどの投書を編集長がすべて目を通すという。私たちも反省し原点に立ちかえらなければならない。デジタル、デジタルと言っても、「紙」への信頼度が一番の財産なのだから。

――大宅文庫の評議員に就任していただいた。大宅文庫もまた、利用者減で運営は厳しさを増している。

大宅文庫は雑誌業界にとって共有の公共財産だ。半世紀余にわたって収集してきた80万冊の雑誌があり、専門のスタッフが作り続ける索引がある。それを広く提供する。この意義をもっと社会に訴えて支援の輪を大きくし、利用者も増やさなければならない。

――現実は減少に歯止めをかけられずにいる。

今回、スマホでも索引検索が出来るようにシステムを改修したのは、最大の資産を生かす有力な武器になる。大宅文庫は信頼出来る情報の宝庫だ。メディア各社は信頼を担保する意味でも大宅文庫をもっと使ってほしい。（ネット情報が氾濫する）こういう時代だからこそ大宅文庫の重要度は増してくると思う。

ほりうち・まるえ氏　1951年生まれ。山梨県出身。成蹊大学法学部卒。75年集英社入社。『こちら葛飾区亀有公園前派出所』と『東大一直線』を初代編集担当者としてスタートさせ大ヒットを生む。「週刊少年ジャンプ」副編集長、「スーパージャンプ」編集長などを歴任、2011年代表取締役社長、20年代表取締役会長。同年から日本雑誌協会理事長。

FIPP　世界60か国の雑誌協会が加盟。今年は4年ぶりの対面会議が実現。各国から約400人が参加し「デジタルからその先へ」をテーマに議論した。

大宅文庫インフォメーション

大宅文庫に「優秀機関賞」

情報科学技術協会 独自の検索「多大な貢献」

都内で表彰式

大宅文庫は、国内のデータベース利用や情報検索の研究活動を行う一般社団法人情報科学技術協会（清田陽司会長）から今年度の「優秀機関」に選ばれ、6月28日、都内で表彰式が行われた。大宅文庫の索引提供の活動が、わが国のジャーナリズムや文化の発展に寄与した実績が高く評価された。

表彰式では、清田会長から大宅文庫の鳥山輝専務理事に表彰状が授与された。表彰状は、大宅壮一が遺した雑誌コレクションを引き継いだ大宅文庫の歴史に触れたうえで「大宅式分類法による『雑誌記事索引総目録』の作成・刊行、Ｗｅｂ ＯＹＡ－ｂｕｎｋｏの公開により独自の検索を可能にし、ジャーナリストを中心に広く利用されている」とし、「多大な貢献」を明らかにした。清田会長はさらに、「大宅文庫が置かれている苦境の中でサービスを維持している努力には頭が下がる思いだ」とたたえた。

鳥山専務理事は「大宅壮一は雑誌の大切さを常に説き、その精神を我々は引き継いでいる。ＡＩ（人工知能）の時代だからこそ手に取って読む雑誌はますます重要性が増している」と述べ、大宅文庫が持つ「雑誌の力」の継承に強い決意を示した。

「優秀機関賞」の表彰状を受ける鳥山専務理事㊨

㊧大宅文庫の「多大な貢献」をたたえる表彰状

表彰状
優秀機関賞
大宅壮一文庫 殿
2023年6月28日
一般社団法人 情報科学技術協会
会長 清田 陽司

2人に大宅文庫賞 図書館学習コンクール

「第26回図書館を使った調べる学習コンクール」（図書館振興財団主催）で、以下の2作品が大宅壮一文庫賞に選ばれ、2023年3月にオンラインで表彰した。（敬称略）

▽高校生の部＝「シベリア抑留の風化を防ぐ～他の事例から探る新たな継承の形」（東京・私立海城高1年　奥　大輝）

▽大人の部＝「悠久の旅をしてきた守護神・獅子は何をもたらしたか～三田の地に獅子狛犬が鎮座し舞い踊る」（兵庫県　今村　勉）

大宅昌さん 十七回忌

住職「想い出尽きず」

大宅文庫の創立者で初代理事長だった大宅昌さんの十七回忌法要が、6月11日、鎌倉の名刹・瑞泉寺で営まれた。三女で現理事長の大宅映子夫妻などの親族が参列。本堂で大下一真住職と子息の周道副住職の読経の後、墓地で線香をあげて冥福を祈った。

墓前で焼香する大宅理事長（中央）ら

一真住職は、「学生時代からとてもかわいがってもらった。17年の思いを込めてお経をあげた。白寿のお祝いなど、想い出は尽きない」と昌さんへの思いを語った。この日、鎌倉には大雨・雷注意報が発令されたが、法要が始まる直前から雨がやんで陽が差し、故人の功徳を感じさせた。

昌さんは、大宅壮一氏の遺言で死去翌年の1971年に大宅文庫を創立。100歳で亡くなるまで理事長職にあった。この間、著書も多く残し、981年に出版した「楽しく生きる老い」はベストセラーになった。

大宅昌さんの生涯

明治39年10月
富山県魚津市で生まれる
父は校長で漢学者

大正13年（18歳）
富山女子師範第２部を卒業。小学校で教壇に立つ

昭和６年（24歳）
大宅壮一の講演会壇上から見染められ結婚。１男３女をもうける

昭和24年～
大宅壮一、ジャーナリズムに復帰。世界１周の旅などを経てマスコミの寵児となる

昭和41年（60歳）
長男歩さん夭折

昭和44年（63歳）
大宅壮一に同行、初の英国旅行。以降西サモアなどへも随伴

昭和45年11月22日
大宅壮一70歳で永眠

昭和46年（65歳）
財団法人大宅文庫設立、理事長に就任。その後エッセイスト、テレビキャスターとしても活躍

平成６年（88歳）
最後の著作『生きて花老いて華』出版

平成19年５月24日
理事長在職のまま100歳で永眠

支援会員20都道府県から

大宅文庫パトロネージュ

5年目 広がり期待

２０１９年度にスタートした大宅文庫パトロネージュは、22年度までの４年間で計約３５００万円の支援会費が寄せられた。いまや大宅文庫の運営を支える貴重な大切な柱の一部になっている。

（本文記事20・21面）

22年度の参加実績（22年4月～23年3月）は法人が10社、個人は１３８人。支援の輪は北海道から九州まで全国各地に及ぶ。個人は東京、神奈川、埼玉、千葉の首都圏４都県だけで１０５人、全体の76％を占めるが、関西地区（７人）、中京地区（６人）など最終的に会員網は20都道府県に広がった。

支援会費の総額は初年度の１３５０万円から徐々に減退傾向を示している。コロナ禍がほぼ収束傾向にあり、５年目に入る今年度、大宅文庫は法人・個人双方で新規会員の開拓に全力を挙げ、支援の輪を拡大を図る。９月初めから支援参加の呼びかけ活動を展開して行く。

「公衆送信」具体化遅れ

高額補償金など難題多く

図書館が所蔵する著作物の資料を利用者の求めに応じてメールなどで送信できるようにする「公衆送信」の具体化が停滞している。２０２３年６月に施行開始の予定だったが、実施主体になる「特定図書館」への承認申請は同時点でなかった。図書館側の対応で難点が多いことや、利用者から徴収する補償金を「なるべく高く設定した」（出版団体）ことなどが背景にある。

実運用は来年度以降にずれ込むのが必至とみられ、大宅文庫は当面、推移を慎重に見極めて行く構えだ。

補償金については、雑誌の場合、１雑誌ごとに１ページ目は５００円、２ページ目からは１００円と決められた。これに図書館の手数料が加わることもある。補償金は図書館側が全額管理団体に支払うことになる。

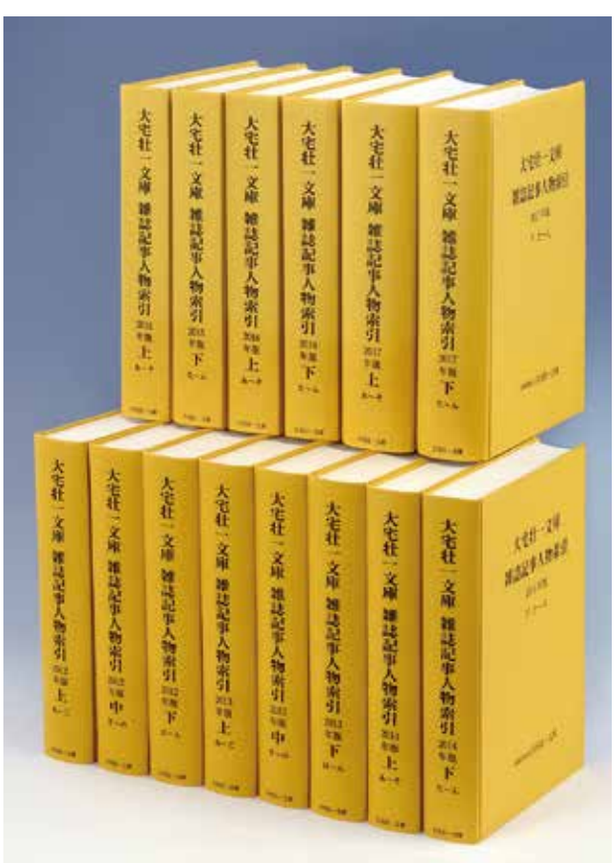
特定図書館は、①ＰＤＦ化と電子送信用の機器導入②データ流失防止対策④著作権者の人定作業――などを担う必要があり、金銭と複雑な作業の両面で負担が大きいと指摘されている。

「雑誌記事人物索引」21年版 受け付け中

「大宅壮一文庫　雑誌記事人物索引」（大宅文庫発行）の最新版である２０２１年版が刊行された。制作元の日外アソシエーツ（東京都品川区）で注文（オンデマンド出版）を受け付けている。21年版以前も製本に応じる（※下記広告参照）。22年版は本年末に刊行予定だ。

雑誌記事で読む人物動向

大宅壮一文庫
雑誌記事人物索引



著 編／公益財団法人 大宅壮一文庫

2021年版	A4・上製本・2分冊	セット定価105,600円（税込）
2020年版	A4・上製本・2分冊	セット定価105,600円（税込）
2019年版	A4・上製本・2分冊	セット定価105,600円（税込）
2018年版	A4・上製本・2分冊	セット定価105,600円（税込）
2017年版	A4・上製本・2分冊	セット定価105,600円（税込）
2016年版	A4・上製本・2分冊	セット定価105,600円（税込）
2015年版	A4・上製本・2分冊	セット定価105,600円（税込）
2014年版	A4・上製本・2分冊	セット定価105,600円（税込）
2013年版	A4・上製本・3分冊	セット定価138,600円（税込）
2012年版	A4・上製本・3分冊	セット定価138,600円（税込）
2011年版	A4・上製本・3分冊	セット定価138,600円（税込）
2010年版	A4・上製本・3分冊	セット定価138,600円（税込）

※この商品はオンデマンド商品です（受注後、制作・納品いたします）。

販売代理店／日外アソシエーツ
〒140-0013　東京都品川区南大井6-16-16　鈴中ビル大森アネックス
TEL.（03）3763-5241　FAX.（03）3764-0845
E-mail:sales@nichigai.co.jp　https://www.nichigai.co.jp/

専修大で「大宅文庫講座」

―流講師陣、講義熱つぽく

3面から連続

大宅文庫は、9月から専修大学文学部ジャーナリズム学科（川崎市）で「雑誌ジャーナリズム論」の講座を行う。超一流の講師陣をそろえ雑誌編集現場の息遣いが伝わる内容が好評を呼び、3年連続の開講となる。

今回も講師はピカ一の顔ぶれだ。「文春砲」の生みの親で週刊文春元編集長の新谷学氏（現同社取締役・「文藝春秋」編集局長兼編集長）を始め、電子書籍ビジネスに詳しいKADOKAWA執行役員の橋場一郎氏らが並ぶ。さらに生活情報誌「オレンジページ」編集長で雑誌とコミックエッセイの二刀流で多くのヒット作品を創出した松田紀子氏が新顔で加わる。

大宅文庫からは鳥山輝専務理事や索引作成の実務者らが例年通り講師役を務め、大宅文庫が社会に果たす役割などを講義する。

来年1月までの全15コマを予定。毎週木曜日に開講する。過去2年度ともすべて対面授業を続けた。外部講師陣は自らの取材や編集などの経験を基に迫力あるジャーナリズム論を展開し、学生たちに新鮮な感動と驚きを与え続けている。

大宅文庫インフォメーション

子どもにも雑誌はすご～く面白い

夏休みの小中高生「雑誌で調べもの」

「雑誌にはキミが知りたいこと、面白いこと、なんでも載ってるよ！」

夏休みの小中高校生を対象に、大宅文庫は8月1～3日の午前中、「夏休み雑誌で調べものスペシャル」を開いた。MIE（教育に雑誌を）活動の一環で2年前から同時期に企画。文庫側は子ども専任スタッフが資料を探すお手伝いをした。

ふだん雑誌に親しむ機会が少ない子どもたちも、様々な雑誌を手に取って自由研究やレポートに見合った記事や資料を見つけ、一様に満足顔。担当スタッフは、「今後も雑誌図書館である大宅文庫が子供たちの調べものにもとても有用であることを多くの方に知ってもらえるよう活動を続ける」と張り切っている。

八幡山索引日記

編集委員　小林　恭子　2023

科学雑誌 苦手とせず

「1冊の雑誌から索引をとるのにどれくらいの時間がかかる？」。見学や取材の方などから必ずと言っていいほど聞かれる質問です。

この答えが結構難しい。雑誌によって1記事のページ数、内容の難しさ、1冊あたりの作成件数が全く異なり、相当差が出てくるのです。

論壇雑誌と写真週刊誌で例えると分かりやすいかも。女性のグラビアなら1件採録するのに1分もかかりませんが、評論系だと5分、10分は確実。でも、どちらも当館の索引としては扱いに差はありません。大宅壮一の「重要（な記事）か重要でないかは、誰がどうして決めるのかね」という遺訓の表れかもしれません。

ちなみに筆者がいつも一番時間を要しているのは、オレンジの表紙で有名な科学雑誌です。「量子力学」とか「三角関数」との理解は無理難題。諦めて読み飛ばせばいいのですが、自分の中で物理と数学の苦手意識をなくすという目標があり、勉強しながら採録に努めています。

紙の雑誌 発行続けて

雑誌の休刊、廃刊が止まりません。スターがレモンを持った表紙の雑誌も、街歩きにかかせなったあの雑誌も。ついには100年続いた週刊誌までも…。この先が心配です。

雑誌によってはデジタル版に移行しています。でも、大宅文庫はそもそもデジタル版の雑誌を収集出来ません。紙の雑誌の刊行が終われば、その雑誌の索引採録も終了となります。

それでも最近は休刊した雑誌が不定期刊で細々と刊行されることが増えました。連載などはがらっと変わってしまっても、見慣れた雰囲気の誌面を見るとやっぱりほっとします。

出版社の皆様にお願いします。どんな形でも、どんな頻度でも構いません。何とか紙の雑誌を出してください。そうすれば記事索引を継続出来ます。索引の中で雑誌の歴史を繋げます。雑誌というこの上なく面白いメディアを、少しでも未来へ引き継いでください。まだまだたくさんの魅力ある雑誌記事の索引を1件でも多く残したいのです。

編集後記

◆「日本人の能力に希望が持てるようになった」。大宅壮一が日本の産業界を俯瞰（ふかん）してこう記したのは1958年11月だ。大宅は前年から「週刊朝日」で全68回にわたり「日本の企業」を連載していた。同誌が154万部の最大発行部数（58年新年号）を記録した時と重なる。◆それから65年。飛ぶ鳥を落とす勢いだった老舗週刊誌が休刊に至った。さすがの大宅も泉下で戸惑っていることだろう。◆当時の編集長・扇谷正造が示した週刊誌編集の要諦はこうだ。「トップ記事は特攻隊で、連載小説や読み物はいわば兵站（へいたん）線である…望ましいのは、この二つの要素を持った企画である」◆週刊誌の退潮が止まらない。時代掛かるが、巨大部数に導いた伝説的編集長の言は多くの示唆を含んではいまいか。熟考したい。（責任編集・渡辺喜満）

大宅文庫ニュース第88号
発　行　所
公益財団法人大宅壮一文庫
理事長　大宅映子
〒156-0056
東京都世田谷区八幡山3-10-20
℡03-3303-2000
https://www.oya-bunko.or.jp

電子書籍ストア

BOOK☆WALKER

角川文庫作品7,000冊以上

BOOK☆WALKERなら

配信出版社
1,400社以上
電子書籍
1,200,000冊以上

当ストア限定の
特典が充実

KADOKAWA
グループの
総合電子書籍
ストア

詳しくはこちら：
https://bookwalker.jp

BOOK☆WALKER

アンビシャス

北海道にボールパークを創った男たち

鈴木忠平

Tadahira Suzuki

ファイターズが
総工費600億円を
投じて完成した
ESCONFIELD
HOKKAIDO。
資金調達、建設地探し……
無数のタスクに立ち向かい、
大志を形にした男たちの物語。

――あなたの心に
フロンティアは
ありますか？

画・吉實恵

第53回
大宅壮一ノンフィクション賞受賞作
『嫌われた監督』
著者による感涙ノンフィクション！

●定価1980円（税込）
電子書籍も発売中

文藝春秋　〒102-8008　東京都千代田区紀尾井町3-23　Tel.03-3265-1211（代）　http://www.bunshun.co.jp